

知的資産経営報告書

2011



CBSグループ

目 次

1. 経営者からみなさまへ	3
2. 経営理念	4
3. 事業内容	5
4. 沿革	6
5. これまでの事業展開	7
6. 当社を支える知的資産	
知的資産－① ベトナム進出サポートのエキスパート	8
知的資産－② CAD作図のエキスパート	13
知的資産－③ 36年間で築き上げた足場のエキスパート	17
7. これからの事業展開	
(1) 事業ビジョン	19
(2) ビジョンと取り組み	20
(3) 知的資産活用マップ	22
8. 会社概要	23
9. 問い合わせ先	24
10. 知的資産経営報告書とは	24

1. 経営者からみなさまへ

ご挨拶

弊社は、1975年、建設土木資材商社の役員であった創業者が、建設用機材のレンタルビジネスに将来性を見出して、独立、創業いたしました。仮設レンタル会社として、地域の建設会社を中心に取引先を拡大し、地盤を固めてまいりました。

1999年、創業者の急逝により、私が引き継ぎましたが、当時、日本経済はバブルがはじけ、日本の建設産業は非常に厳しい時代に突入したころでした。

その後にやってくる厳しい時代に生き残るために、それまで培ってきた弊社の強みを活かしながら、新たな事業展開を早急に切り開くことが急務であると感じた私は、

- ―社内基盤強化の年―、
- ―新事業への種まきの年―、
- ―種から出た芽を育成する年― という3年×3=9年計画を立てて実行してまいりました。

私は、前職は大手精密機器メーカーの技術者としてデジタル機器の開発に20年間携わり、特に海外協業を長く経験してきました。

私が現職を引き継いだ後も、技術者時代に知り合った国内外の多くの方からの応援もあり、創業者が培った建設業界への信頼と、全国のレンタル会社とのネットワークの上に、建設CAD事業という種を育てるため、「株式会社CBS」を子会社として設立いたしました。

さらに、海外経験を活かし、「CBS Vietnam Co., Ltd.」をベトナムのホーチミン市に設立し、建設CAD事業の発展に取り組んでいます。

幸い、三菱重工グループの設計会社、高菱エンジニアリング株式会社様との提携が始まり、ガスタービンという高度な機械設計もベトナムにおいて順調にこなすことができるまでになり、建設分野から新たな産業分野への拡張もできてきました。

さらには、ベトナムにおける人脈構成の中で、現地建設会社との関係強化が図られ、昨年からは、技術を持つ日本の中小建設会社と、ベトナム建設会社とのマッチングを図り、中小建設会社のベトナム進出を推進する取り組みを始めています。

弊社の歴史を振り返りますと、小さな会社ではありますが、永年作り上げてきた企業価値に新旧のアイデアや技術、ノウハウと支えていただいている人々の応援によって今日に至っており、その主たる要素は何かを明確にしてみることが重要との認識をいたしました。

これらを整理し、明らかにすることで、この所謂、知的資産をもっともっと活用することができ、さらなる飛躍を目指すことが可能になると考えます。

この知的資産経営報告書は、2007年3月に経済産業省から公表された「中小企業のための知的資産経営マニュアル」に従って、当社の見えざる経営資源、そして強みを活かした今後の事業展開、成長可能性を表現しています。

なにとぞ本報告書をご覧いただきまして、弊社の思いをご理解頂けましたら幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。



2011年 3月

姫建機材株式会社
代表取締役社長

井上 学

2. 経営理念

私たちは、MOT (Management of Technology) を通じて、企業の経営革新を支援する集団です。

日本の産業は、その創造力と技術力によって新サービス・新商品を生み出し、技術立国として日本の地位を高め、私たちの生活を豊にしてきました。

しかし、国際競争の激化、日本国内の少子高齢化など、企業環境が厳しく変化して行く現在、従来の考え方や、一国・一企業だけでは、革新を伴う発展を続けることが難しくなりつつあります。

将来の国家と企業の発展のためには、今こそ、MOT、即ち、技術人材の育成、蓄積された優秀な技術の活用、技術のグローバル化が必須であると、私たちは考えています。

私たちの使命は、MOTを通じて、継続した企業革新に寄与し、企業に係わる人々に夢と生きがいを提供することです。

私たちは、日本国内はもちろん、全世界に張り巡らせた建設・IT・電機・機械など多くの産業に関わる企業や人材とのネットワークと、これらによる高い企画力・技術力を備えています。

私たちは、私たちの持つ知恵とノウハウを用い、世界レベルで企業の発展を、クリエイティブにサポートします。

私たちは、CBS、Creative Business Supporter です。



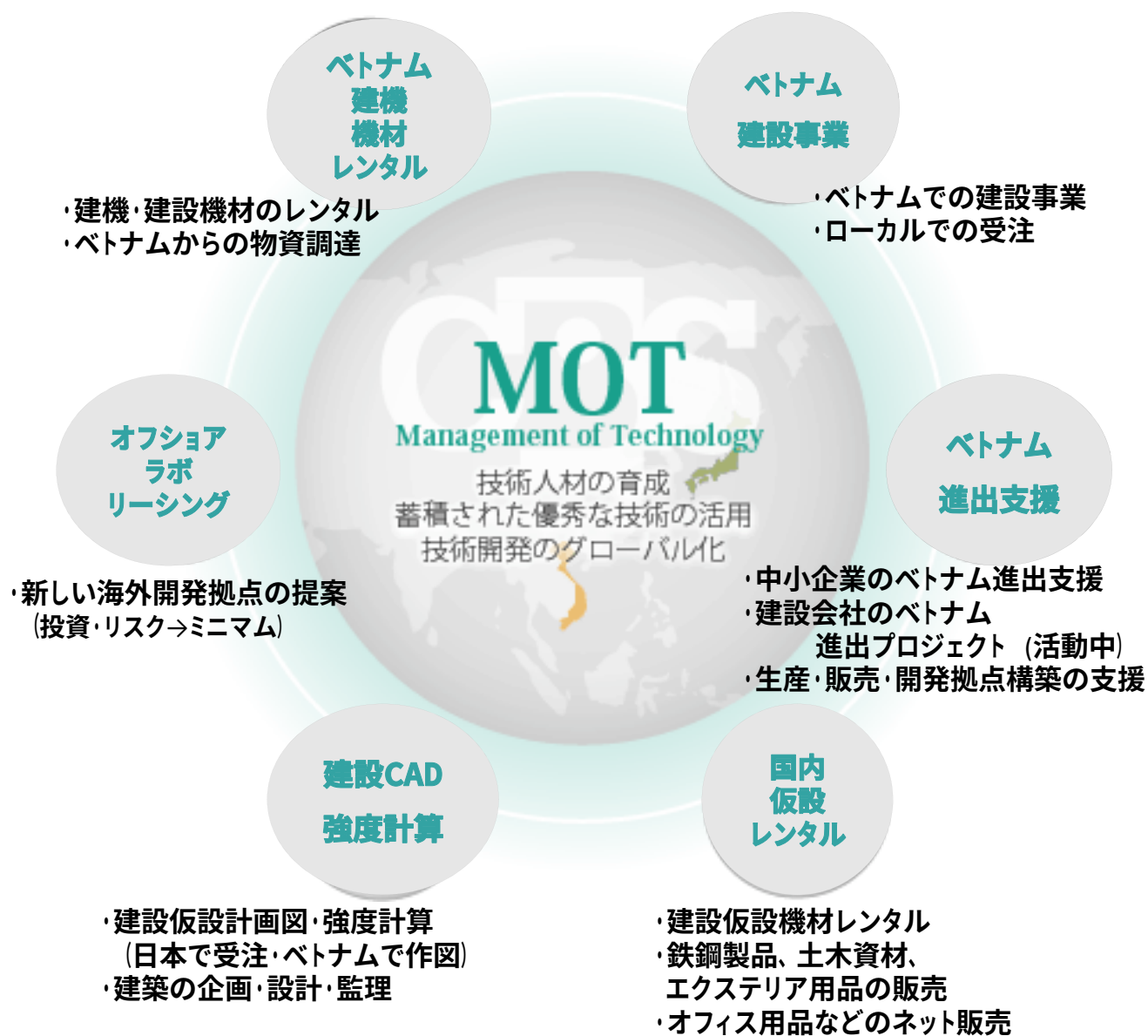
社は
「喜」

従業員とその家族・取引先など当社と関わりあう全ての
人々に喜びを与えることを、私たちの喜びとする

4つの口癖

- ・私一人では何も出来ません。でも、私一人から始めないと何も出来ません。
- ・私らしく、やりましょう。あなたらしく、やってください。
- ・自分自身を振り返って考えましょう。
- ・仕事なんかで悩んではいけません。

3. 事業内容



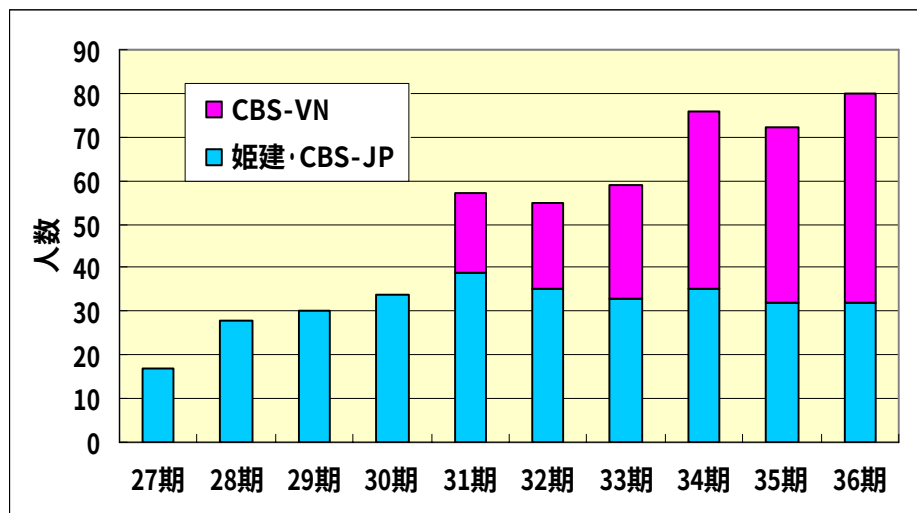
私たちは、私たちの持つこれらの得意分野によって、皆さんの事業活動を応援し、社会に貢献しようと考えています。

4. 沿革

期	年		月	トピックス
1期	1975年	(昭和50年)	6月	姫路市別所町北宿に仮設リース業として 井上 廣義が姫建機材株式会社を設立 資本金500万円
8期	1982年	(昭和57年)	9月	資本金1,000万円に増資
14期	1989年	(平成 1年)	2月	社団法人・軽仮設リース業協会正会員
16期	1990年	(平成 2年)	11月	社団法人・仮設工業会第2種正会員
17期	1992年	(平成 4年)	1月 3月 10月	資本金1,500万円に増資 とび・土工、工事業 高砂機材センター開設
25期	1999年	(平成11年)		井上 学が代表取締役社長に就任
	2000年	(平成12年)	1月	資本金3,000万円に増資
28期	2002年	(平成14年)	7月	鳥取事業所開設
30期	2004年	(平成16年)	8月 10月	株式会社CBS設立 「中小企業経営革新支援法」認定企業
31期	2005年	(平成17年)	3月 10月 11月	資本金5,250万円に増資 一級建築士事務所登録 ベトナム ホーチミン市に設計会社 (CBS Vietnam Co.,Ltd.) 設立
32期	2006年	(平成18年)	2月 12月	大阪営業所開設 東京営業所開設
	2007年	(平成19年)	3月	資本金8,175万円に増資
33期			6月 10月	高菱エンジニアリング(株)と、 ガスタービン設計プロジェクト開始 特定労働者派遣事業登録
34期	2008年	(平成20年)	12月	有料職業紹介事業許可
35期	2010年	(平成22年)	3月 7月	中小ベトナム進出支援事業開始 古物商許可

5. これまでの事業展開

従業員数推移



近い将来
CBS-VN を
100名～200名規模へ

創業から現在までのストーリー

新創業期3

33期～36期
(3年間)

[2007～2010]

- * (株)CBS東京営業所 開設
- * 高菱エンジニアリング(株)と、ガスタービン設計プロジェクト開始 (オフショア・ラボ・リーシング本格化)
- * 中小ベトナム進出支援事業開始

種から出た芽を育成

新創業期2

29期～32期
(3年間)

[2003～2006]

- * 株式会社CBS設立・大阪 開設
- * 「中小企業経営革新支援法」認定企業
- * 一級建築士事務所登録
- * CBS Vietnam Co.,Ltd. 設立
- * ベトナムコネクションの強化

新事業への種まき

新創業期1

25期～28期
(3年間)

[1999～2002]

- * 社長自らが社員研修を実施
- * 機材管理部門を分社化
- * 鳥取事業所 開設

社内基盤強化

創業期 [1975～1998]

1期～24期 (23年間)



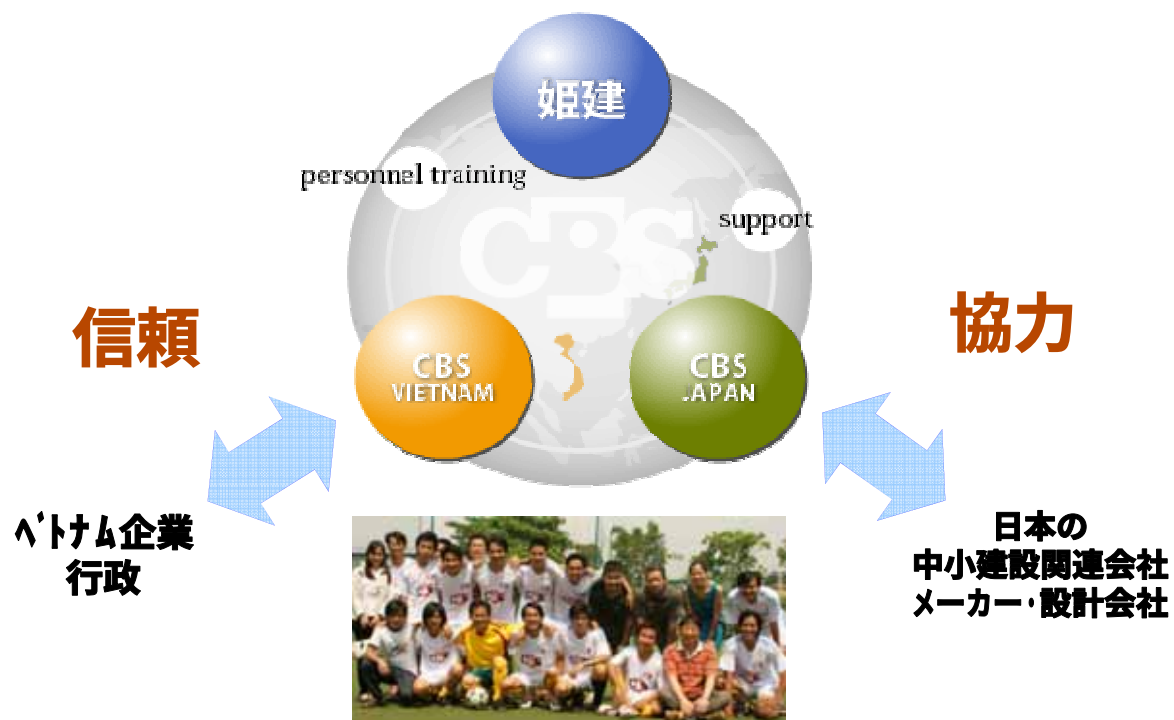
- * 仮設リース業として姫建機材株式会社を設立
- * (社) 軽仮設リース業協会正会員
- * (社) 仮設工業会第2種正会員
- * 高砂機材センター開設

事業確立期

6. 当社を支える知的資産

知的資産－① ベトナム進出サポートのエキスパート

私たちは、中小企業のベトナム進出をサポートします



**日本の技術とベトナムの信頼できるパートナーを
結びつけます**

ベトナム拠点作りと、運営管理を熟知しています

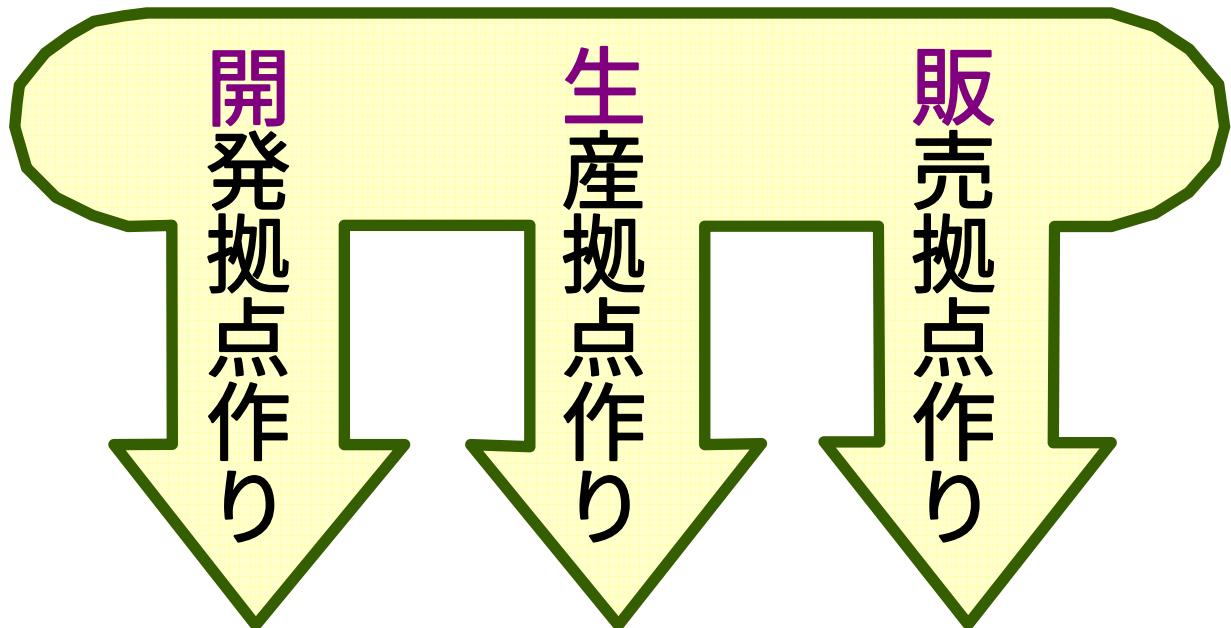
**リスクミニマム、投資ミニマム、成果マキシマムの
新しい進出方法を提案できます**

商社とは違った、細やかなサポートができます

知的資産－①

(1) 拠点作り

ベトナムの心でサポートします



商社・ゼネコンとは異なるサポート

※2002年に足掛かりをつくった

エキスパート

※2005年にCBS-VNを設立
※ベトナム人社長による
ベトナム人のみの経営に成功



*優秀なベトナム人の発掘
*ベトナム人の人事労務管理
*ベトナム人がやりがいのある環境作り
*ベトナム人の法的管理

ベトナム社会との幅広いネットワーク

◆政府・人民委員会

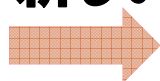
◆ベトナム企業経営者
(ハノイ + ホーチミン)



親密な関係

知的資産－①

(2) 新しい海外進出の提案



オフショア・ラボ・リーシング

投資 ミニмум
リスク ミニмум
成果 マクシмум

開発の「器 (入れ物)」は
全てCBSグループが準備します

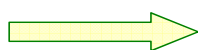
ー建物、人材の確保、技術者の管理、
組織管理、経理処理、政府登録、
労務管理、法務問題……

実績)

三菱重工グループ 高菱エンジニアリング(株)
ベトナム設計事務所

※ガスタービン・蒸気タービンの3D設計

ベトナム人技術者
現在17名在籍



100名規模に拡大予定



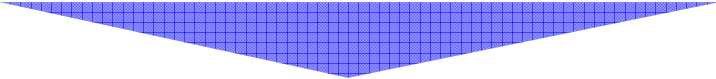
2009.5.29 高菱エンジニアリング(株)ベトナムオフショア設計契約締結

知的資産－①

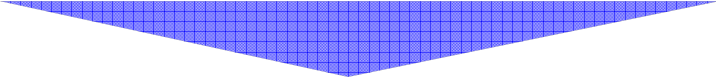
(3) 中小ベトナム進出プロジェクト

ベトナムの企業、人からの信頼

- ⇒ベトナムは『**人のつながり**』を重視する儒教文化であり
当社はその流儀に即している
- ⇒当社が長年つくり上げた現地のネットワークを
多くの企業に役立てることが可能
- ⇒ベトナム進出を検討している日本の中小企業が
必要な技術やノウハウを提供できる
- ⇒同じ考えを持つ企業と協力して行動するという
進出モデルの拠点



ベトナムからの日本製の機材・機械と
日本の技術への要望の声が高まり・・・



中小ベトナム進出支援事業 を開始！

後援 *ベトナム総領事館
*日本貿易振興機構 (JETRO)

2010年
3月26日

**海外進出の経験がない中小建設会社の
ベトナム進出を支援する研究会の設立**



同年6月下旬までの3ヶ月間、約30社が講演や視察を通じ、
ベトナムに関する基礎知識や建設市場の動向を学んだ

**本格的な進出を目指す
「ベトナム進出プロジェクト」に移行**

プロジェクトメンバー
20社
2011年4月現在

知的資産－①

◆ 親しくお付き合いしているベトナムの建設関連企業

ホーチミン：FCC



CC1



PETROLAND
SOUTHERN CIVIL



C&T

HPCLAND



HOA PHAT

SONG DA



SAWACO

TEDI

ハノイ：CIENCO1



LICOGI

HUNG CUONG



INDOCHINA

HANDICO7



VINACONEX



SONG HONG



CAVICO



VIWECO



HAD

知的資産①

◆中小ベトナム進出セミナー



2010.12.1 建設工業新聞



2010.3.10 神戸新聞

◆ベトナム視察ツアー



現地ゼネコンとの情報交換



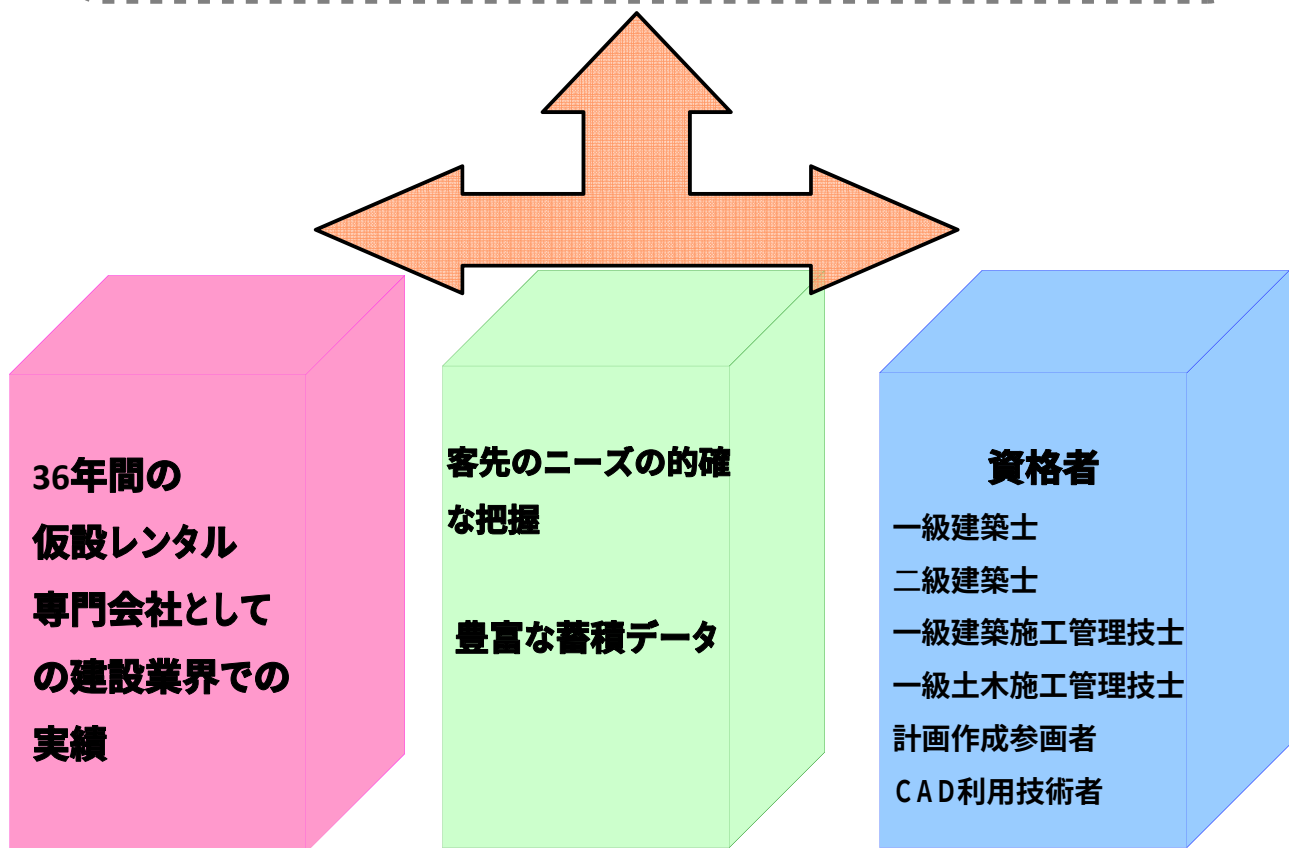
2010.9.1 建設工業新聞

2010.9.6 神戸新聞

建築・土木系CAD

日本で受注・ベトナムで設計作図

◆建設仮設計画 ◆強度計算 ◆各種施工図



コスト競争力

**ベトナムの豊富な
設計作図力**

特に仮設図に関してオールマイティ

過去の図面・計算の実績

5年間 約6000件

仮設材の管理部品データ

約50000件

経験と知識が豊富な日本人技術者が
優秀で豊富な、若いベトナム人技術者と連携

そこには
オリジナルなコミュニケーションシステムの構築
と
ベトナム人技術者育成ノウハウ

その場にもっとも適した設計図面を提案

関連法令遵守による
安全の確保

+

施工性
作業性
経済性
(コストダウン)

を踏まえた
設計を提案

知的資産－②

日本 - ベトナムと連携した技術体制

国内 3拠点

株式会社 CBS

JP 11名

大阪



3名



東京



6名



姫路



2名



CBS Vietnam Co.,Ltd.

ホーチミン市

VN 48名



CBS ベトナム



建設設計部



機械設計部



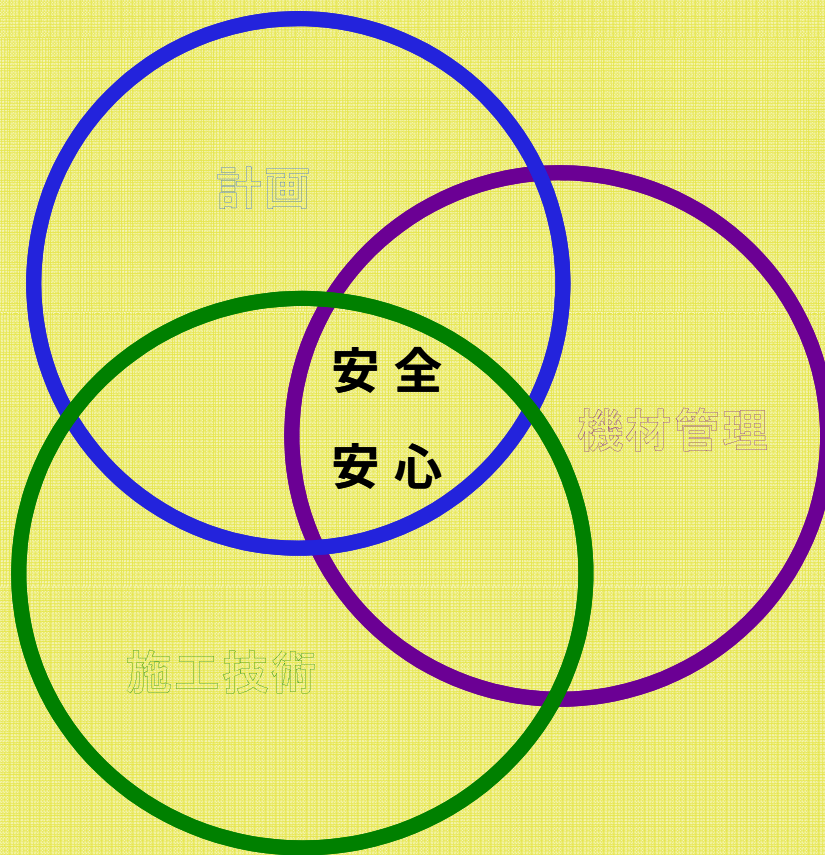
定例勉強会



小テスト

知的資産－③ 36年間で築き上げた足場のエキスパート

**私たちは、建設工事における安全と安心を
お客様に提供します**

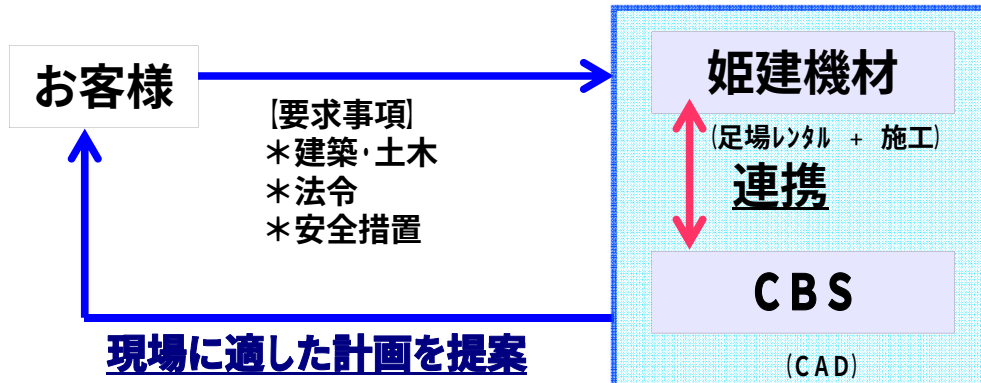


昭和50年設立から今日までの36年間で培った、経験・ノウハウ・ネットワークを
『計画』『機材管理』『施工技術』に活かし、より大きな【安全】・【安心】
を提供出来るよう、社員一同 日々業務に取り組んでおります。

知的資産－③

(1) 安全 安心な仮設計画

－ 足場レンタル・施工部隊とCAD部隊との連携



(2) 安全 安心な機材

－ 安全基準を満たした整備

自 社 品

－ 経年仮設機材管理基準適用工場に認定



高砂機材センター

仮設工業会の厳しい整備基準に則った整備

再リース品 － (社) 仮設工業会 認定商品
(社) 軽仮設リース業協会会員



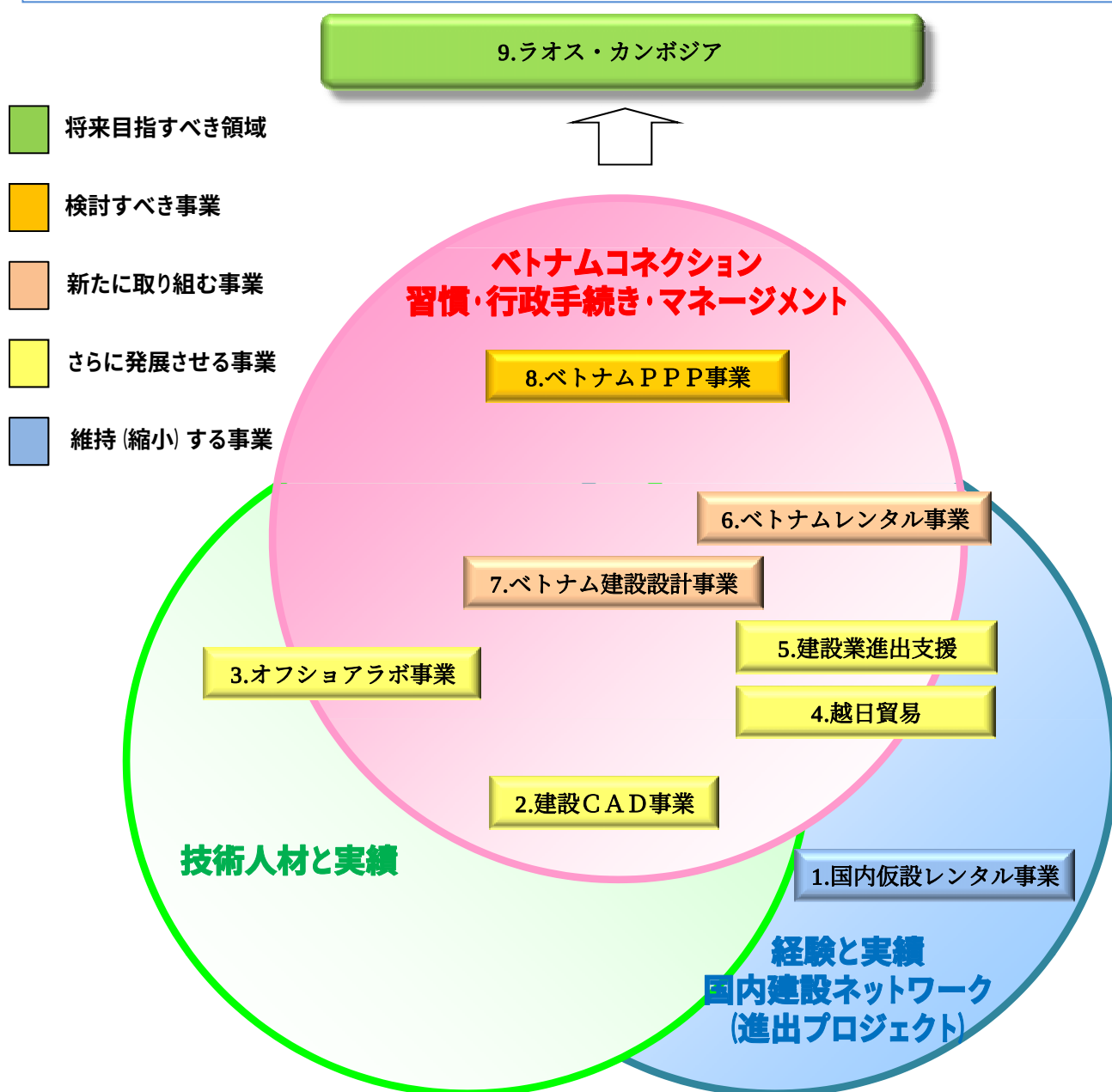
認定商品を扱う協会の企業から
再リースし、安全基準を保持

※再リース：同業社よりレンタルした商品を転レンタルすること

7. これからの事業展開

(1) 事業ビジョン

1. 私たちが持つ知的資産の融合領域は、事業発展と、社会貢献のために大きな強みを持つ領域です。この領域内での既存事業を、より強固なものにするともに、新たな可能性ある事業を展開します。
2. 私たちの最大の強みは、他の国内企業にないベトナムとの強いネットワークと、培われたノウハウの蓄積、とりわけマネージメント力です。これを活かしたベトナム国内での事業展開と、さらなるグローバル化を目指します。



(2-1) ビジョンと取り組み

1.国内仮設レンタル事業

日本国内の建設市場は、この10年間で半分に縮小し、今後もこの傾向は変わりません。この市場での事業拡大を目指すには、縮小する市場の中でのシェアの獲得競争でしか無く、コスト競争に巻き込まれ、事業性を悪化させざるを得ないと思われます。今後、事業拡大を目指すのではなく、これまでの顧客との良好な関係を維持しながら、縮小せざるを得ないと考えています。

2.建設CAD事業

建設市場は縮小するものの、建設CAD市場は、既存建設物の改修需要に伴い、ある程度の市場規模を維持するものと考えられます。CADのコストは人件費成分がその殆どであり、当社グループのベトナム作図と、技術ノウハウでもって、圧倒的な競争力を有しています。営業活動の強化、ベトナムでのCAD人材の育成により、シェアの拡大を図ります。

3.オフショアラボ事業

日本企業による生産分野でのオフショアは多くの実績がありますが、開発設計分野では、ITを除けばまだまだ、遅れているのが実情です。しかし、同分野においても、日本国内での人材確保・グローバル化への対応・コスト削減の目的から、今後は徐々に拡がることが予測されています。当社は、ベトナムでのマネジメントノウハウを用いた新たなオフショア開発設計の仕組みを築き、三菱重工グループ会社との実績を重ねながら、その規模を拡大しつつあります。今後は、三菱重工だけでなく、新たな企業との協業を目指し、PR活動を行ってゆきます。

4.越日貿易

ベトナム企業は、日本の高品質な商品や機械を求めています。一方、日本企業は、中国に替わる商品、部品の製造元、供給元を求めています。それぞれの企業単独では実現しにくい取引先の探索・斡旋を行い、仲介を行います。それぞれのニーズをマッチングして行くことは、日越両企業に対して貢献できると共に、当社グループのベトナムコネクションをさらに強める活動として継続して行きます。

5.建設業進出支援

ベトナムの建設産業は、インフラ整備のみならず、民間による住宅や商業施設の建設も活発に行われています。一方、日本の建設市場は、年々縮小を続けており、中小建設会社にとっては事業存続が大きな命題になっています。ベトナムでは、急激な建設需要増大に対し、技術・人材・設備の不足が顕著であり、日本への期待は非常に大きなものがあります。両者を結び付けることは日越両国にとっても大きな意義があります。また、弊社の強みをさらに強化する上でも重要な取組であるとともに、日越の建設会社が協力している姿を早期実現させたいと思います。

(2-2) ビジョンと取り組み

6. ベトナム レンタル事業

ベトナムの建設会社は、機械設備を自社購入してきましたが、高金利の中、拡大する需要を賄うだけの資金が枯渇しつつあり、レンタルによる機械設備の調達を模索し始めています。当社グループは、日本国内で行ってきたレンタルビジネスのノウハウをベトナムでも活かすことが可能です。現在、ベトナム企業数社から、レンタルビジネスに向けての提携要請があり、覚書も交わしています。日本のレンタル会社からも共同での進出検討を依頼されています。まさに、ベトナム市場ニーズがあり、ベトナム顧客も確保できていること、当社の経験ノウハウを発揮できることから、日越のパートナーとともに、1～2年以内を目標に、事業開始するべく、検討を重ねています。

7. ベトナム 建設設計事業

上記、レンタル事業とともにベトナムの建設関連会社から強く求められている事業で、先述の「5. 建設業進出支援」を促進する事業でもあります。特に、日本の建設施工における技術、品質管理、日程管理、安全管理の優秀さは浸透しており、これによって施工された建設物の価値は、通常よりも高くなるとさえ言われています。行政組織からも、事業開始を促されており、技術・頭脳を売り物にする事業として、2年以内に開始し、上記、レンタル事業とともに、ベトナムにおける建設産業の中での地位を築こうとしています。

8. ベトナム PPP 事業

先述した、各々のベトナム建設関連事業の集大成としての位置づけの事業です。ベトナム政府は、インフラ整備、土地開発に関し、民間資金の活用を積極的に推進し、かつ日本の国交省も、これを応援する立場であることを表明しています。ベトナムでは、この案件に参加する民間企業に対して、認可を与えますが、この認可を取得することが、日本企業にとっては審査手続きなどで一番困難を伴うと言われています。弊社では、ベトナム人ネットワークを利用して、煩雑な手続きや交渉をおこなうことができ、現段階でも可能性ある案件を提示することができます。少なくとも5年のスパンで取り組む事業です。豊富な資金力が必要なことから、まずはパートナー探索のための情報収集と発信を行います。

9. ラオス・カンボジア

ベトナムだけでなく、これからは、ラオス・カンボジアが成長し、インドシナ半島として大きく発展して行くことが予測されています。この3国の中で、ベトナムは政治的、経済的に中心的な存在であり、強い影響力をもっています。ベトナムを拠点としてカンボジアとラオスに事業拡大することは、当然の流れと見るべきで、実際に、ベトナム資本の進出事例もでてきています。まずは、ベトナムでの地盤を確立することが必要ですが、将来への模索は、近々に始めなければならないと考えています。

(3) 知的資産活用マップ

今後のビジョン

1. 私たちが持つ知的資産の融合領域での既存事業を強固なものにするとともに、新たな可能性ある事業を展開する。
2. ベトナムとのネットワークと、ノウハウ、マネージメント力を活かしたベトナム国内での事業展開と、さらなるグローバル化を目指す。

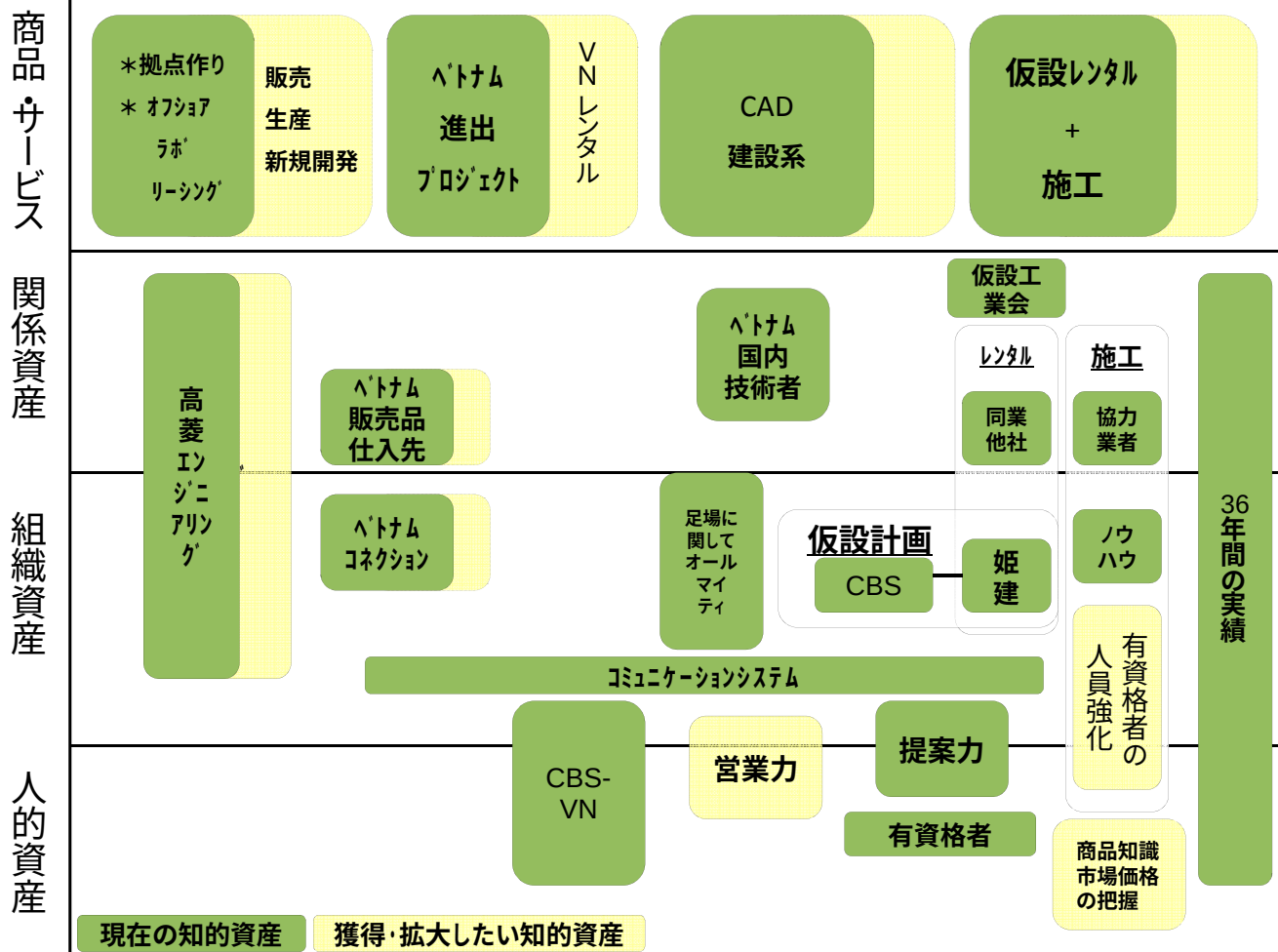
重要成功要因

ベトナムにおける
知的資産の
さらなる拡大

既存事業での
確実な実績

日本パートナーの
拡充と
そのためのPR

知的資産活用マップ



8. 会社概要

CBSグループ <http://www.kk-cbs.co.jp/>

◆ 姫建機材 株式会社

本 社	所在地	〒671-0223	姫路市別所町北宿1024番地 TEL:079-253-0551 FAX:079-253-4580
鳥取事業所	所在地	〒680-0906	鳥取市港町43 TEL:0857-32-0330 FAX:0857-32-0335
	E-mail		info@himeken.com
	設 立		1975年6月10日
	資本金		8,175万円
	代 表		代表取締役 井上 学

◆ 株式会社 CBS

本 社	所在地	〒532-0011	大阪市淀川区西中島5丁目3番4号 TEL:06-6886-5331 FAX:06-6886-5332
東京営業所	所在地	〒103-0014	東京都中央区日本橋蛸殻町1-26-8 三愛水天宮ビル8階 TEL:03-3661-1031 FAX:03-3661-1032
技術統括部	所在地	〒671-0223	姫路市別所町北宿1024番地 TEL:079-253-0821 FAX:079-253-1663
	設 立		2004年8月30日
	資本金		1,000万円
	代 表		代表取締役 井上 学

◆ CBS Vietnam Co.,Ltd.

所在地	22 Yen The St. Ward 2 Tan Binh Dist. HCMC, Vietnam
設 立	2005年11月7日
資本金	US\$400,000
代 表	社 長 Hoang Ngoc Lan

9. 問い合わせ先

姫建機材 株式会社

担当部署 業務部

担当者 主任 大前 昭夫

〒671-0223 兵庫県姫路市別所町北宿1024

TEL: 079-253-0551 FAX: 079-253-4580

E-mail: ohmae@himeken.com

10. 知的資産経営報告書とは

① 知的資産経営報告書とは

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

② 本書ご利用上の注意

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘り当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するモノではないことを、十分にご了承願います。

③ 作成支援・監修専門家

本報告書は、(公財) ひょうご産業活性化センターの知的資産経営支援事業により、以下の支援者のご協力を得て作成しました。

○ 株式会社バリューシンク 林 浩史 (はやし ひろし) 氏

中小企業診断士（登録番号402842）